

## 第2回 第三者評価委員会 会議録

### 1 日時等について

日 時	平成 26 年 6 月 2 日 (月) 午後 1 時 30 分
場 所	教育委員会室
出席者	
評 価 委 員 長	尾 木 和 英
評 価 委 員	小 松 郁 夫
評 価 委 員	佐 藤 晴 雄
教育委員会事務局次長	石 井 秀 和
教育委員会事務局参事 (すみだ教育研究所長)	佐 久 間 之
庶 務 課 長	岩 佐 一 郎
学 務 課 長	齋 藤 好 正
指 導 室 長	月 田 行 俊
生涯学習課長	前 田 泰 伯
スポーツ振興課長	佐 久 間 英 樹
ひきふね図書館長	倉 松 邦 多
小 学 校 長 会 長	須 藤 太 郎
中 学 校 長 会 長	菊 本 和 仁

### 2 会議の概要

庶務課長 皆様こんにちは。本日はお忙しい中ご出席頂きまして有り難うございます。只今から平成26年度第二回墨田区教育委員会第三者評価委員会を開催させていただきます。

本日は第三者評価委員会としては2回目ですがやり方を少し変え、各課から出ました重要課題について重点審議を頂くという事で本日は3課題です。「1 学校 ICT 化推進事業」について、所管は庶務課です。「2 いじめ問題・不登校問題などへの対応強化」について、主に指導室です。「3 すみだチャレンジ教室の実施」について、すみだ教育研究所の所管です。以上3点につきまして本日は重点的にご審議頂ければと思います。本日は、小学校と中学校の校長会を、オブザーバーでご参加を無理にお願いし出席頂いています。有り難うございます。大変恐縮でございますが開会にあたり各校長先生から簡単な自己紹介で結構ですのでお願い致します。

(小学校長会長、中学校長会長の順に、自己紹介を行う。)

庶務課長 本日は小学校、中学校からそれぞれ校長先生にご出席頂いていますので、学校現場でどう  
いう状況かという事も頂ければと思います。それでは早速議事に移らせていただければと思います。

尾木評価委員長 おおよその時間の目安を見ながら効率的にしかも内容のある会議にしたいと思いま  
す。どうぞ宜しくお願い致します。では早速お手元の次第の中の議事に入りまして、最初は ICT 化の推  
進事業について、ご説明いただけますでしょうか。

(「学校 ICT 化推進事業」について、庶務課長が説明する。)

尾木評価委員長 有り難うございました。本日は校長会を代表して小学校、中学校の校長先生にご出  
席頂いていますのでお二人の先生から、今の説明を聞いた中で、この部分はもっと評価しても良いので  
はないかとか、ここは若干違和感がある、あるいは少し補足説明が必要であるという事を交え、ご感想  
ご意見をお聞かせ頂ければと思います。小学校の立場から最初にご発言よろしいでしょうか。

小学校長会長 はい。まず、ICT 教育を推進して頂いているという事は墨田の子供達にとって大変  
有り難い事だなと感じております。ICT 化推進事業という事で、25 年度の取り組みの中で見ますと、  
電子黒板等の研修という事で教員も全国あるいは全国平均で、使えるような人間が増えているという事  
です。これは事務局の担当職員のお蔭で研修も充実しており、そういうところは良かったと思います。  
校務支援システムでいいますと、非常に良い点とまだまだな点と、やはりこれはソフトの問題もあるか  
なと思っております。良い点は多々あるのですが、例えば回覧板で情報を共有したい人間に情報提供  
し、その情報が相手に届いたかという事も、情報発信者がわかるシステムになっています。これは非常  
に使い甲斐があり、また即時発信、即時受信ができますのでこれも非常に有り難いかと思います。ただ  
欠点も、学びの扉にはありまして、これは NEC さんが作っているソフトなのですが例えば、子供た  
ちの写真を撮って『学校だより』に載せたりする事がありますが、まず写真を撮って写真を共用パソコン  
から読み込ませるという作業が必要になります。そしてそれが教育活動環境というものの中に入ります。  
学校だよりは大体校務環境というソフトで作りますのでまずその写真を中間ホルダーに落として校務  
環境に移行させないといけないのですね。それを校長室のパソコンで行いますと往復 8 分半、作業を抜  
いて、掛かります。これは、このスピード時代には非常に厳しい印象を受けます。

尾木評価委員長 今ご指摘の件はハードに関わって、ハードの整備に関わって、ということですか。

小学校長会長 ソフトの問題です。環境を整えるのにもの凄く時間が掛かるのです。ですから子供た  
ちの写真を撮ってきて即座に貼るという事ができないのですね。色々な前作業を含めて 10 分くらいは  
掛かってしまうという状況なのです。また、大体普通のメール等は、今メールが来ましたというアラ  
ートがあって然るべきなのですが、これが最短 10 分間隔で来ます。その 10 分間隔アラートによって、来  
た時に作成している文書が途中でスタックすると、非常に使いにくい状況が続いています。また電子版  
の通知表作成ソフト「歩み」も非常に使いにくく、ポイント数が自動的に切り替わってしまうのですね。

空白や余白がどうしても付いてしまう等ですね。

尾木評価委員長 また協議の中でご要望等出していただくようにしていただければと思います。

小学校長会長 わかりました。

尾木評価委員長 中学校の方から、よろしいでしょうか。

中学校長会長 今回の、教育環境とか校務環境の切り替えというのは物凄く難しいな、本当に時間が掛かるなというのはあります。ホームページもそれぞれにタップする要するにクリックを校長・副校長がした時にその次に更新されて、見ることが出来るのに時間が掛かる。即座に伝えたい情報等がなかなかいかないというのが非常に大きな問題かなと思います。あとは先程出ましたように各校とも3、4台の電子黒板はあるのですが、やはり常時置いてないとなかなか使えない、というのがあります。今、本校で使っている教科としては英語、数学、社会、美術、こういった言ってみれば若手の教員のほうがこういう機械系には強いというのもありますし、研修を受けた段階で即時に使ってみようという前向きな姿勢の者がいる訳なのです。数字的には50%が使えることとなっていますが、物が無ければ使えないという事と、若手の方では積極的に使っているという現状があると思います。従ってそういった中で今後、固定の状況が増えてゆけば、というのもあります。それと、色々新しい機器が出てくると、本校、たぶんこの写真はうちの桜堤中学校なのですが、今度入れている所へはもっと軽い物がタブレット型で入って来ているのですね。本校に入ってきた時に私、一番最初に持たせてもらいましたが男子の生徒が片手で持って打つにはちょっと重い。両方持っていれば何とかなるのですが、片方で女の子が持つには例えば横にすると斜めにしてしまう位、重いです。今年出た、そういったハード関係の物はどんどん進化進展し、新しくリニューアルしている部分があるので1年経つととんでもない位軽くなっている。後で入れる学校の方が物凄く使い易いだろうな、という形もこの1、2年位でそういう風になってきているので、その校務支援システムとか教育活動システムも何かしらの形で早く活用できるかどうか、切り替えの時間を短くする等が出来るかという事かと思えます。以上です。

尾木評価委員長 小松先生、今伺っていて何かご指摘はありますでしょうか。

小松評価委員 評価の観点で言うと一つは、区がこういう新しい教育環境の整備に年次計画を立てながらしっかりやっているという事については基本的に大事な事で、僕は良いと思うのですが、特にICT絡みで言うと今のお話のような問題は必ず出てくるので、その辺を一方で随時機動的に現場でいろんな状況を聞いて、どういう風に対応できるかという、これは行政って非常に、民間に比べると動きが鈍い、ある意味でやむを得ない事で、その辺の事が一生懸命やっているのだけでもなかなか難しいね、という評価になってくると思えます。本質的な事で言うとICTは大きく3つあって、今日の説明も3つに分かれています。1つは、いわゆる校務システムの面的なハード・ソフトの条件整備の問題ですね。2つ目、タイトルはICTを活用した指導の推進、という事なので、授業改善等に具体的にそれがどうなっているかという事なのです。3つ目はそれを使うための研修やセキュリティ問題は一体どうなっていますかと、この3つを多分並行的にやっていかなければならないですね。全国で、様々な所でこ

れは色々な形でやっているの、一つには、他の自治体や学校等の分を充分参考に出来るのではないだろうか。墨田区の中だけで色々なことをやるのではなく、費用含めた条件の中で出来るだけ費用対効果を考えてどこかの自治体の先進的な例を参考に云々が、もう少しあっても良いかなと。独自に全部やろうとするとなかなか大変なので、多分、先進事例をどう取り入れるかです。細かいことでいうと、ホームページを拝見しているのですが今朝、他区のある学校のホームページを見ていたら区内でばらばらで非常に見にくいのです。先程の指導室長にお伺いしたのですが大きな所では区全体がどうも統一しているらしく非常にある意味では見やすく、その辺は教育委員会がきちんと指導し、区民に対する見易さ、という点で行っているのは非常に良いなと思いました。後は、それぞれのコンテンツは学校により少しばらばらなので、その工夫は必要です。これもですから区内だけでも良いので他校の分も随時見ながら、他の学校の良いところは積極的に、どうやっているのですか、という事を校長会レベルでもよいしそれ以外のレベルでもよいので、教育委員会でも少しリーダーシップを発揮してこれを行う人達の、横の連携をもう少し上手くやると、ノウハウを積極的にどんどん、お互いに融通出来るのではないかなと思っています。評価的なことと言うと私は、ICT 導入はある部分では強制的にやらないと成果はなかなか難しいのではないかと私は思います。さっきの健康カードでやってない学校があるということは何とか頑張って少し強制的に一斉に始める、あるいはその為の支援を是非していく形です。私達は大学でして、私は去年の4月から新しい所に移ったのですが移ったその日や、1週間以内にその大学のシステムに慣れないと常に情報がそこから来ますからね。そういう面でこういうものは慣れるまで1年待って下さい、3年待って下さいとやっていたら私は完全に情報過疎の所にいるわけだし、いろんな文書も全部そういう所から来ていますから。これは少し厳しい言い方になるかも知れませんが強制的にやる事も必要かなと思いますし、特に先を見通した時に、これは出来るだけ早く教育委員会と学校とで対応していかないと、どうなのかなと思っているのと、その為には先程のソフト開発をする企業に対しても、むしろこの業界の人達は客からの注文で仕事を変えていく人達ですからそういう意味ではガンガン注文を出して、駄目なら会社を変えるよと言う位にしていかなないと多分駄目かなと思うし、そうしていく必要があるかなと思います。もう一度簡単に言うと基本的に年次計画で丁寧にやっていく、ただもう少しスピードアップしたりもう少しお金をかけて下さるともっと良いかなと思います。基本的にはそういう、新しい施策をやっている事を私は評価をしたいと思います。二つ目には、各学校が苦勞している事に出来るだけ迅速に対応するやり方が出来てくる、と思っています。出来ればもう少しスピードアップして頂くほうが、子供たちの為になると思います。特に ICT というのは C の『コミュニケーション』が入っている訳で、コミュニケーションツールとして今までとは違うコミュニケーションを行政と学校なり、区民と学校で連携できる施策があるといいかなと思います。

**尾木評価委員長** 私からも2つありまして。まずお二人の校長先生方からお話下さったことは非常に重要な事なのです。それを次の事業展開に活かすためにはという事で、今は ICT についてですが次の議事になっているいじめ問題・不登校問題もそうですが、いかに学校でどんな課題を抱えていて、いかに苦しんでいるか、というようなきめ細かな実態把握と教育委員会としての働きかけをどう効果的に行うか、という事が非常に重要かと思いました。後半の働きかけ部分については小松先生から少し、やや力を込めて働きかけをされたらどうかというご提案がありましたけれども。私は、区内で、年間かなりの数の授業を見せて頂く機会がありますが、この ICT 活用について言うと事業名は『授業改善の推進』となっているのですが、平成 25 年度の 5 年計画の中の 5 本柱で言うと 2 番目の『校務の情報化の推進』

というところはかなり効果が進んでいる様に思うのですが、主要になっている『授業改善の推進』部分については課題が残っているのではないかと。これは、本当は時間があれば校長先生方から「いやそんなことは無いよ」と頂くかもしれませんが私が授業に参加している限りで言うと、少しそういう印象を持つのです。これは実は、本区だけではありません。東京都全体の課題で、私の記憶ですと20何年も前に武蔵野市なんかは物凄く、全校を挙げて情報機器を活用して授業改善に取り組んでいて新しい授業をどんどん作っていたのですが、一向にそれが都内の横に広がらないのです。それから例えば、ICTを活用して学校全体の授業を改善するという取り組みについて記憶にあるのは、こんなことも出来るのかと思ったのには、10年位前に静岡県沼津市で校内研究発表会という非常にユニークな研究発表会をやったのです。これは全部LANをしていて、市内の全部の学校がそれを受け止めて校内研修と結びつけて同時に校内研修をした学校もあるし、それを受けて校内研修に活かして授業改善に活かすという取り組みを、当時やっていたのです。ICTを活用すると授業改善、校務の改善にも非常に効果があると思うのですが、そうしたことに向かっては、私は、区内ではやや学校差があるように思うのです。非常に良く取り組んでおられる学校もあるけれども、若干取り組んでおられない学校もあって伺いしてみるとこれはハード面に関係するのでしょうか、電子黒板等が使いにくい状況になっていますね。フロアを跨って行う場合には、その都度動かすために、例えば小学校だと45分の授業の中での準備に凄く時間が掛かる。終わって片付けるのに時間が掛かるという課題があるのです。そうした課題をどうするか、具体的な事を解決していかないとなかなか実際の目標の達成に結びつかない。その辺が課題で、その事を先程お二人の校長先生が控えめにご指摘頂いたかと思えます。続いて議題2番目の『いじめ問題・不登校問題』に移らせて頂きます。指導室からお願いします。

(「いじめ問題・不登校問題対応の強化」について、指導室長が説明する。)

**尾木評価委員長** 有り難うございました。対策推進法に規定されている内容に関して、各学校がどんな風に取り組んでいるかという実態把握はどう行っているのですか。

**指導室長** その件につきましては昨年度の校長会等で、学校の方で基本方針を作るとか組織を立てることについて、前任の室長から指導が入っております。

**尾木評価委員長** それで各学校が取り組まれますよね、それがどこかのある時点で、区内の小中学校でどんな対応をされているかの実態把握というものは、今のところ？

**指導室長** 現時点ではまだ、把握していません。

**尾木評価委員長** これは都から何か、そういう事について連絡協議会のようなもの、あるいは働きかけみたいなものは無いのですか。

**指導室長** 都教委のほうの条例というのは今度の都議会で決定をみる形になっているので、その後になるかと思えます。

尾木評価委員長 都の指導企画課の中にブースがありますよね、そこから区市に対して何らかの情報提供とかあるいは指示みたいなものは無いのですか。

指導室長 現時点では次の都議会で整理されて条例、基本方針、総合対策というのはそこで出てくる形です。

尾木評価委員長 要するに国の方針を受けて都としての基本方針を定めるという。そういう事ですか。

指導室長 はい。一応こんな感じ、という情報は頂いています。

尾木評価委員長 わかりました。今の事を受けてお二人の校長先生方から、各学校の取り組みの実態というのはどの様になっているのでしょうか。

小学校長会長 既に私達は素案を作っておりますし、もう既に作ってしまっている学校もあります。

尾木評価委員長 校務分掌の中にも位置付いているのですか。

小学校長会長 はい。もうそれは位置付いています。

尾木評価委員長 大体、区内小学校全部、位置付いているのですかね。

小学校長会長 基本的には今、指導室長からお話があったとおり、いじめ対策担当者それから不登校対策担当者が校内におりますので中心になって、もちろん生活指導委員会とも連携を取り位置付けをしております。

尾木評価委員長 中学校はどうですか。

中学校長会長 はい。やはり同じように担当者がおりますし、それぞれ年間計画を作るのですが、いじめの事や不登校の事を A4 一枚くらいに簡潔にまとめて対応するという体制は作っております。

尾木評価委員長 今度対策法の中で、いじめに対しては、いじめに特化した主任を置くというものが出てきますね、ああいうものは意識されているのですか。

中学校長会長 そうですね。今回、区教委のほうから、必ずこれは主任として挙げなさいという形で出てきていますので、これは必ず各学校とも致します。

尾木評価委員長 区内中学校でもそう、組織の中に位置付いているという事ですね。

中学校長会長 はい、校務文書の中に入っています。

尾木評価委員長 わかりました。小松先生、何かお気づきの点はないでしょうか。

小松評価委員 今お話にあったような事はきちんとやらなくてはいけないし、出来るだけ早くやらなくてはなりませんが、意外に言われている割には遅いなと思います。

私は先月 14 日に衆議院で、地教行法改正の時に、隣に大津市の市長さんがいたのですが、それを聞きながら、特に政治的な部分もあると思いますが、学校現場とか教育委員会の動きがそういう方々から見ると遅いというか不満が残っていて、その辺のところに充分答えられていないのだろうなあ、というのがあります。それと同時にこのいじめや不登校問題は長い事、学校で一生懸命色々取り組んできて、私の知る限り海外に比べると日本の先生たちは本当に丁寧にいろんな事をやって下さっているのですがそれでもゼロにはならない、むしろ認知の問題等あるのですが、墨田区一つ見てもそんなに劇的に減るといふ風に思えない。そうすると本当にどうすると良いのだろう、という点が多分一番苦労しているのだろうと。評価する観点から言うと、区教委も学校も、とにかくこれは法律もあるのだけれども、例えばスクールカウンセラーを区独自に配置したり、今のように組織的な対応を各学校でやって下さっているので一生懸命やっているのですよ、という評価が、出てこなくてはならない。しかしながら、2 つ目のポイントとして残念ながら無くならない。そういった時、私は大津市の事にも関わったのですがこれはもう区教委や学校だけではなくなかなか難しい問題ですと。情報の共有や問題の早期発見に関していうと、保護者や地域住民との連携やその人達の協力が何としても欠かせない。やはり悩みを抱えている子供達は、また家庭の中にも長時間いる訳だし、これは書き方が難しいですがご家庭で自分のお子さんを見守り観察をする、ちょっとした変化にもきちんと気付いて何かあったら先生なり場合によっては区教委のどこかにでも相談するというような、子供を中心に考えた時にいじめ・不登校件での保護者、地域との連携に対してもう一段、やっていく必要があると僕は感じています。ですから国会で、議員さんを含めて教育委員会や学校は隠蔽体質みたいなことを盛んに厳しく言われて、私はそうじゃないと答えてきたつもりですが、そういう風に見られることに対して今後色々な配慮をしていかないといけない。充分してきたのだけれど。その為にはこれ以上、どんどん学校に責任なり役割を課していくと、逆に言うと先生たちが、色々な教育活動を含めかなり大変な事になるからこうして実情と対策をしっかりと説明した上で、保護者や地域住民の理解を深める施策を、今後の方向性や課題として入れていく必要があるのではないかなと私は思っています。

尾木評価委員長 もう一つ付け加えさせて下さい。先程のご説明の中で幼保小中の一貫に力を入れたいとの説明がありましたが、これはいじめ・不登校の両方に共通して非常に重要な視点です。実は今からお出しする例は、ある会議の内容を口外する事はまかりならぬという条件の中での会議に私が参加したものですから具体的にお話し出来ないのですが、一昨年、昨年と、かなり深刻な大きな事件が起き、その検討委員会のメンバーに私も加わったのですが偶然とは言えないのでは、と思ったのは両方ともいじめに関わる小学校の時点での問題、特にいじめについて言うと、小学校の時の人間関係の歪みはずっと持ち越されていて、後になって見たら、それがもっときめ細かく中学校において把握されていて指導対応に活かされていたら、口にされませんでした。何人もの人が、あの事件はもしかしたら未然に防げたかもしれない、という思いを抱いたのですね。口で言うのは簡単なのですが、幼保小中の、一人の幼児というか児童、生徒のそのお子さんとそれを取り巻く人間関係を追跡的に把握していった健全に育

てていくというのは意外に難しいのだと思いますが、今、墨田区の小中学校ではその連携のところはどうなのでしょう。大体上手くいっているのでしょうか。あるいはもし課題があるとすればこんなところが実は難しいという事があるのかどうか、むしろ私は教えてもらいたいですが、いかがでしょうか。それとも割と上手くいっているのでしょうか。

**小学校長会長** そうですね。数年前から幼稚園や保育園から、各小学校を訪問して下さって課題のある子供さんについての情報提供をして下さるお蔭で、いわゆる小1プログラムも未然防止部分に繋がっていると思うのですが。

**中学校長会長** 中学校のほうも、小学校の選択制で今のところ来ますので、多数来る小学校は比較的聞き取りが出来るのですが、1、2名のところについては電話連絡等くらいになってしまうのがネックだという事があります。もう一つは非常に難しい人間関係というのは、例えば小学校の時にかなり大きな問題が起きた、だから聞き取りをして中1になる時はクラス編成を考えるのです。単級で無い限り必ず、2つの別のクラスにする。3クラスあれば、別にする。ところがその情報は比較的その後、中2になる時や中3になる時にまだ引きずっている子供がいて、親は小学校の時の事を根に持っている。中2になって何故、同じクラスにしたのかと。要するに時間的経過が、情報を薄めてしまっているという実態も無くはない。それがいじめに発展したという事も実際にありました。比較的そういう情報は個人情報なので持ち上がるという事とか、その事が備考欄に書く等しておかないと、なかなか上手くいかない。教員も同じ学年ですと上がる訳ではありませんので、新しく来た学年とも共有していくのは必要かと思えます。保育園・幼稚園から小学校、小学校から中学校へ上がる、先程も出た健康カード等の情報もある程度本当に非公開情報だけでも共有化しておかないと難しい問題が、ますます別の所で発展するという事も起きるのだと考えています。

**尾木評価委員長** 有り難うございました。大きく言えば、いじめ・不登校に関わる研修会、研修の工夫と、言葉で言えばそういう事になると思いますが従来型の研修では、例えば今お話下さったような内容に迫れない部分があるので、そういう事に迫っていくにはどういう研修にすれば良いのか、あるいは課題になるのかと思ひ少し問題提起させていただきます。

**指導室長** 今後の方向性の1番下に書いてありますように、担当者を決めさせて頂き、その担当者がブロックの中で研修だけでなく情報交換していく形になりますので、そこで幼保小中の部分の整合性をとる事と、学校の中での進級問題は改めて、また、どういう風にしていますかという形での指導室の対応も含めた丁寧なやり方ができるかと考えます。

**尾木評価委員長** 有り難うございました。

**小松評価委員** なかなかそういうトラブルがあつたりすると、1年経ち2年経っても中には20数年経ち同窓会の時に、〇〇したみたいな話があり。人間の恨みやつらみは、なかなか解消しない。でも一方では、去年はこうだったけど成長過程の中で出来るだけ仲直りをするとか、そういう事もある意味教育的な働きかけですかね。非常に難しいとは分かるのですが、そこは多分、警察の対応と学校の教室

の対応の大きな違いだと思うのです。悪い事をした事実をもって取り締まりますが、学校の場合それだけでなく、そのトラブルの背景なり状況をしっかり把握した上で出来るだけ被害者・加害者にならないような指導にまで、先生達はやらなくてはならないし、やろうと努力していらっしゃる。非常に難しい事を先生方に期待をしている点で言うと、情報をみえみえでカードに書く事は出来ないし、そうかといって申し送りの方法をどうするのか、とか、そういう意味でも組織的対応はとても大事で、その時点で複数の教員が見て行うという事や、ぶれないで対応するという事も、組織的対応として大事なので、墨田区で、今後の方向性の中に掲げていらっしゃるし既に進めている、その事を私は評価をし、校長先生を中心として組織的対応をますますしっかりしてもらえると良いと思います。

尾木評価委員長 有り難うございました。では続いて議事の3つ目に入り、すみだチャレンジ教室の実施について、に移らせて頂きます。

(「すみだチャレンジ教室の実施」について、すみだ教育研究所長が説明する。)

尾木評価委員長 最初に、基本的なことで質問させて下さい。2つありまして1つは成果というところで、参加者35人で平均点が事前では46.9点、事後では70点と大変成果が上がっているのですが、この基礎になる問題というのは同程度の難易度の問題の、同じ程度の難しさの問題であるのか、それからこの問題作成を誰がやるのか、はどうなっていますでしょうか。

すみだ教育研究所長 同程度の内容というのは例えば、今は中学1年を対象にしていますが、その学年の前の段階で、本来中学1年で解っていなければならない部分で出来ていない単元に絞って、それは数学だったのですが、学生講師の方で問題は作っております。

尾木評価委員長 こんなにやはり上がるのですね。同じような問題で、ぐんと点数が上がるのですね。

すみだ教育研究所長 そうです。同じような類似の問題で指導前と指導後に比べるとこんなに変わってしまう。単元を絞っているというのはとても明快だったという事もあるのですけれども。

尾木評価委員長 もう一つ教えて下さい。課題の中の今後のこういう試み、多分色々な学校でこういう機会があれば良いなと思っておられると思いますので、複数会場での実施というのは非常に意味を持っているのではないかと思うのですが、講師を獲得するための大学との連携はどんな風にされていますか。

すみだ教育研究所長 これはNPO法人のほうで、ホームページで、アナウンスをもちろんするのですが実際にそれを学生講師として行った人たちのクチコミで、各大学に散らばっているのですが、学生そのものの報酬はゼロなので。交通費しか出ない。それは委託費で出しますので学生と教育委員会の接点は無くNPO法人のほうで各大学から募集する形です。

尾木評価委員長 事務局から直接大学に働きかける事は無いのですね。

すみだ教育研究所長 はい。ただ各大学のほうの学生講師で実際にやった人たちは、これをやると子供たちを教えてとても子供たちが変容してくれて、もっとやりたいけれども卒業するから後輩に、御前達やってよと連れて来てくれる。良い学生が、また良い学生を連れて来て来てくれています。

尾木評価委員長 お二人の校長先生方から、何かこれに関してご発言ありませんか。

小学校長会会長 そうですね。八広の場合は4人希望を出してキャパシティーが少ないということもあり、今後は拡大の方向性が出ておりますしそれも有り難い方向かと思っています。

中学校長会会長 中学校のほうですが、今後の方向性の授業規模の拡大ところの当該校が本校でして、土曜日ごとに120名位の2年生を対象に今やって頂いて2回目になりますが、30人募集したところ34~35人の子供たちが応募してきて、受けられない子供たちは勉強がある程度出来る子供達であるという事でやっているのですが、学習習慣の付いていない子供達が習慣を付ける意味で非常に大きな効果が上がっていると思います。ほぼ、休む子どもはおりません。3名に対し1人の講師というのも非常によく効果が上がっている。

特に中学校になって、子供達が荒れる原因の一つが、授業で何をやっているか分からないと。それはもう小学校の積み残しがそのまま現れているのです。だから、本当に立ち戻る機会というのは非常に大切だと思っています。分かってくれば当然授業に対する取り組みも変わってくるので勉強習慣が無いことを習慣付けさせる事と同じように、大きな事だなと思います。そういった中で全校、全区展開していくともっと良いかと思います。本校だけでなくそれこそ墨田区全体の学力アップという、底上げは当然必要な事であるのですが、小学校で積み残したものを中学校でのどこで行うかというこの課題も、放課後学習をやっていてもそこまで立ち戻れないという実態も、例えば算数であれば分数だったり小数点のことであったり単純にその辺りに戻らないと、掛け算九九まで戻らなくともその辺りで躓いている子供も一杯いるので、それを上げるだけでも随分違ってくるのではないかと感じ非常に良い試みだと思っています。だから本当に、全区展開が中学校で出来てくるとすごく良いと思います。

尾木評価委員長 やはり、会場を広げていくとなると予算面で大変なのですかね。

すみだ教育研究所長 予算はいくらでも出したい気持ちはありまして、学生をたくさん集めると質が担保できない点があり、ある程度ふるいにかけて選抜して、という事だとどうしても資質は限られてしまう。誰でも良いですからという訳にはいかず、自信を持って子供達の前に立てる学生をという事を目標としますのでそこは何かもっと増やして下さい、お金を出します、他の自治体でなくこっちに来て下さい、と言ったのですが。それでも、26年度は若干ですが少しキャパを上げて頂いたところではあります。

尾木評価委員長 先程私が大学との働きかけを質問させて頂いたのは、私は個人的に、比較的この近隣の大学で、こういう事に参加したいという意欲的な学生をいっぱい知っているのです。その先生から私に、「この学生たちの意欲が活きるようなものが何か無いでしょうか」という相談があって、個人的

に一部のその学生さん達を連れて学校の研究会などに行っていて、学校と結びつくような事をされていると知っていたものですから。ただ、今のように質が、というと課題があるかも知れませんね。

**すみだ教育研究所長** ただ、これは教育委員会主催でももちろんやっていますが、SST（スクールサポートティーチャー）等の外部支援団体が各学校で授業の放課後補習という形ではやっていますので、意欲的な学生さんがもし、墨田区に通い易くて来られるということであれば、是非墨田区でSSTに人材登録して頂き、各学校に意欲的な学生さんを配置できるのはとても良いと思います。

**尾木評価委員長** 小松先生も今の件に関して情報をお持ちだと思いますが、どんな風に把握されていますでしょうか。

**小松評価委員** 私もティーチフォーアジアを知っていて、元々アメリカでやってきた団体ですよ。私はしっかりした組織だと思うのですが、具体的にやる人の、学生の問題で言うと学生も色々ありアルバイトもしないとならないし授業もだんだん、課題を出して授業を受けるだけではなくという事に今はなっているんで、学生はこういうこともやりたいのだけれど、余裕がないということもありますよね。まだ、これは夏休みなので良いですが、質の問題は、他の区で予備校や塾の講師を頼んだケースでさえ私が授業を見て、ちょっと酷いな、よくこれで塾講師をやっているなという事もありますよ。そうではない、まだ2、3年生の学生達だから、この組織が研修をきちんとやるという原則は守っているところは安心なのです。私は評価の話で言うと、各学校レベルで先生方あるいは学校として学力的に差がないように先生たちは努力していらっしゃる訳です。これは教育委員会の評価だから、そういう各学校の努力をきちんと応援してもらいたいと同時に、このように委員会も旗を振って、まさに主体的に事業を展開し始めたというのは、他区にもあるが墨田区でやって実績が上がっているという事は、私はちゃんと評価をしたいと思います。その為の、どうもお金の面は余り心配が要らないようなので、具体的に出来るように区として色々条件整備をしてくれると良いかと思います。課題としては、こういうもので子供達が解かる様になった、成績が上がった、学習習慣がそれなりに付いてきたという事であれば、それは日常的には学校に返して頂いて学校の中で学習習慣を定着させる、場合によっては習熟度別の指導のスタイルをと、今まで日本の学校は、どちらかというそれを嫌がっている先生方が非常に多かったのだけれど、習熟度別に勉強するという事も充分効果があるケースもありますよ、という形のを返して頂ければ、各学校で学年や教科に応じて習熟度別の学習の工夫も提案し、それを指導室なりに応援をして頂く、あるいはそのための授業のやり方を検証するという事によって、本丸である各学校での学力的に課題のある生徒・子供をどうするかというところに、成果が最終的にいけば教育委員会としての取り組みも非常によいのではないかと思います。あるいは学校の正規の授業の中では習熟度別はなかなか難しいという声が強ければ、このように外でなら、塾や予備校では当たり前習熟度別をやっていますから、子供達も解かる授業を受けたいということを使うので、学校はなかなか学年制をはずせないあるいは出来るだけ一斉のという事があるとすると、それとは違う知能として当面は外で、学力に応じた指導を、研究と実践をしてもよいかと思います。

**すみだ教育研究所長** 習熟度別は各学校でももちろん取り組まれています先程少し申し上げた、意欲の面での学習習慣ですがこのプログラムをやる時に、自分は将来何になりたいのと、教科と教科の間の

休み時間等に学生が子供達に働きかけて、では何のために勉強するのか、そういう些細なところから雑談から始め、それを通じて最終的には自分は保育士になりたい等こういう仕事をやりたいと書いてもらうのです。動機付けとして、その為に自分は今まではいい加減な気持ちでしたけれども少し解かるように努力したいという事を本人から言わせるのが最終の狙いで、その単元が例えば少数・分数が出来なかったとしても、それは一つの切り口であってその気持ちの切り替えを狙っているのが最大の願望です。

*尾木評価委員長* 土曜教室の授業は指導室の所管ではないのですか、これも研究所ですか。土曜教室として希望者に学習活動などをするような学校がありますよね、この所管は。

*すみだ教育研究所長* 学校支援ネットワークですか。

*尾木評価委員長* 各学校の中で土曜教室、土曜における授業で、今度法改正になって場合によっては教育委員会が校長先生の権限に任せるという所も出始めていて、各学校でこれは、校長先生の権限で様々な活動をしたりそれから・・・。

*指導室長* それは指導室です。昔の土曜補修教室みたいなものは研究所だったのですが、土曜授業という形で普通にカリキュラム組んでいるのはこちらの所管です。

*尾木評価委員長* これと、このチャレンジ教室とは、全く関わりはないのですか。

*すみだ教育研究所長* チャレンジ教室は土曜の午後、放課後という形でやっています。あるいは夏休みの休業期間中、いわゆる放課後というのは休業期間中ですよ。

*小松評価委員* これは一応、本丸の学校の中での活動の外ですね。しかも夏休みであって、しかも学力に課題のある子供で、まずはそれを出来るだけきちんとやる事とその成果を、ここで切れてしまうのではなくて結局基本的には子供達はここで育つ訳だからこれを少しでも還元していく。その途中段階の手法の一つとして今出てきた土曜授業という形で正規のカリキュラムで、しかしそれは土曜日なのでこの授業の時だけは、思い切って習熟度別のものをもっと発展的にやる等の工夫はあっていいと思うのです。この部分の話をしていて私は大変評価をするし、それが意欲・学習習慣を含め、例えば8月に行い、1~2週間後の9月に学校に戻った時、例えばとても身近な事だと、解らない時になかなか「解らない」と言えなかったのが8月を経て9月以降の授業の時に「解らない」と先生に少し言えるようになったとかね。そうなるだけでも随分違うのだと。ここの放課後をもっとやってくれると更に良くなるのではないか。

*小学校長会長* 放課後学習教室という、チャレンジ教室とは別に既に研究所のほうで予算を付けて下さいまして支援員の方に来て頂いて、それぞれ学校でやる曜日は違いますが既にやっております。そちらは、どちらかと言うとまだ遅れている子供達を中心に面倒を見て頂く形で取り組んでいるところです。

*指導室長* 土曜日の正規の授業の中でもある小学校なんかは、算数の東京ベーシックを使いながら保

護者が丸付けをする形で、自分が一番やれていない所を子供達が見つけてはやって、出して、丸付けしてもらって、という事を全ての学年が1時間目、一斉に行っているというような取り組みをしているところもあります。

尾木評価委員長 これからは様々にずっと進めていく中で、この事業が充実を図る事は、学校教育における教育過程との関わりをもってきたり、それがトータルで言えば学校の教育目標の達成と結びつくという事で、これからいろいろ行われるようになるのでしょうか。

すみだ教育研究所長 はい、そうです。チャレンジ教室はあくまでも家庭学習の他という位置付けではあるのですが、学校の中で遅れている部分が実際に立ち戻れたという事で、学校によっては SST により実際にこういうところまでやれるようになったという事を各学級担任の先生まで戻して、その子の情報を、今までやってきた結果この部分は少し弱点克服出来ましたよという様なやり取りはしていると聞いています。

尾木評価委員長 これは非常に意味のある取り組みだと思います。先程小松先生も仰いましたが私も、20年くらい前になるのですが、あるチームで『中学3年生の数学の零点の深さの研究』というのを行いました。試験で零点を取りますよね、零点に深さがあるのですよ。それでね、大体の子は分数で分母が変わるようなところで大体つまずいて零点に結びついてくるのですが、深く躓いている子は掛け算の九九とか、二桁の足し算あたりで、学校で一生懸命努力していてもなかなか回復できないまま、ずっと上がっていくお子さんがいることが把握出来たのです。こういった多様な機会の中でそれが可能になりますよね。学校の一斉授業の中ではなかなか、こうしたお子さんに対して習熟度別の指導を色々やるけれども難しいところが、そういう事で改善されていくので、そういう意味では非常にあるかな、とお伺いしました。有り難うございました。ちょうど予定の時間になりましたが、最後に、もう一度校長先生方から、ここはもう少し補足しておいた方がよい等があればお願いしたいのですがいかがでしょうか。

中学校長会長 今、すみだチャレンジ教室の説明がありましたが、本校は HATO 教育環境支援プロジェクトという東京学芸大学の学生に支援を頂く形で、本校に学校支援室という常駐の教室を設けております。そこで子供達の底上げを図るために今行っているプロジェクトの面白い点があり、それを一つご紹介します。実は、YOUTUBE に例えば分数だったり色々、難しい点を書いて、手元を全部映して、それで喋っている言葉もその中から出てくる。〇〇が何で、〇分の で掛けると、こうなるよね、といった言葉があって、それはずっと書いてあり、子供はそれを見ながら写しながらいく。すると最後はこうやって、と。でもここで間違えてはいけないよねと、アドバイザー的にやっているのです。それが既に9本出来ていると。それで本校の放課後学習や長期の休みの中でやっているのをそれを今活用し始めたのです。そうすると、なぜ自分が解らなかったか、というところが分かってその診断をする為に非常に分かり易いのが数学なので、算数の段階に戻るのですがその算数の試験を本校では必ず入学式に、算数と国語は行っているのです。どこで躓いているのかが大体判るのでその子供達を1週間、1年生にこういう風な問題をやる、とやった後に、まだ出来ない子供達にそれを残していくと。そうすると YOUTUBE なので最初の議題の ICT に戻るのですが、今学校では YOUTUBE を見る事が出来ないのですね。本来的に YOUTUBE は上手くアクセスしないとんでもないところに飛んでいってしまう

のでそれが出来るような何かしらのセキュリティもしくはどこかで見られるようなものを作ってあげば、家にパソコンがあればそこにアクセスができ、いつでも勉強ができると。さらに、常に語りかけてくれるようなシステムなので、人間ではなく語りかけてくれるのは機械なのですが、その事は非常によく解ってくる。今、本校で数学の教員は出来なかった子に、君はここにいこうね、2番を使おう、3番を使おう、分数だったり掛け算だったり、その部分に立ち戻って、このところをずっと見ながらやっています。というこのシステムは多分、人も時間も比較的許される状態の中で出来る非常に良い取り組みという事なので、あと1年プロジェクターが本校に関わる事になっているので上手く流せば、小学校でも中学校でも、その躰きのところから出来るという素晴らしい取り組みが出来ていると思い、出来る限り早くそれを本校の方に位置付けて、それを一つ検証した上で出来ると良いかなと。本校はYOUTUBEを一部アクセスできるようにさせて頂いているのです。その代わり、変なところに飛ばないよう教員が付いた上で使用します。そんな事も取り組みとしてやっておりますのでご紹介させて頂きました。少しICTの関係も含めて、それであればタブレットでも出来るという点もあると思います。以上です。

尾木評価委員長 今、先生がお話下さったような、仮に区内全部の学校に何年か掛かって条件整備が出来たとすれば、研修の機会、あるいは学校で開発された指導方法を共有する機会があれば、区内に広がることは可能でしょうか。

中学校長会長 だと思います。

尾木評価委員長 そういうことですね。

中学校長会長 ただ、自宅でも出来るというのが非常にメリットです。いつの段階であってもそのYOUTUBEにアクセスさえ出来れば、その事は出来ると。ただ、解らない部分が分からないままだとそこに飛べないので、やはり診断をしなければいけない、というのはあると思います。君はそこに戻れば良いということ。算数や数学はどこへ戻ればいいかが非常に分かり易い教科で、何が解からなかったらどこへ戻ればいいと。それは教科の特性にもよると思いますが算数、数学は比較的やり易い。基本なので算数、数学を取り組める子は、比較的他の教科も基礎的には何とか出来るかなということ。

尾木評価委員長 これは教育委員会としての課題かなと思いますのはICT活用に関連して、今話を伺って私はそういうソフトは開発されているだろうなと思ったのは、もう10数年前に私は体育大学に勤めていたのですが体育の授業でも、あるソフトを入れておくと例えばよーいドンで走りますね、それをずっと見ていてその後で『貴方の走りはスタートのここに問題がある』と全部、たちまち、それを分析して伝えるのです。バスケットの試合を分析していて貴方はここに問題がある、と試合運びの途中でもそれが出てくるのです。そうするとそれを今度は、大学の場合だと学生に、自分達は一体どこを改善していけばそういう技術が出来るのか、というソフトがもうその頃開発されていましたから、今先生がお話されたような数学・国語、どんな教科でもきっとどこかで開発されているのですね。ですからこれは研究に値するかも知れないと思い発言させて頂きました。

中学校長会長 全てボランティアの、学芸大の学生が作っています。

尾木評価委員長 そうですか。予定の時間になりました。全体を通して何かご発言ありますでしょうか。

小松評価委員 もう既に国内でもましてや海外ではとっくに開発されています。どうして日本は使わないのか不思議でしょうがないです。3月にイギリスの学校に視察に行った時に、動画で子供の学びを撮り学んだ成果をちゃんと記録してそれが学校のサーバーに全部入って、どこで間違えたか全部分析出来る様にとっくに開発をされているのですよ。どうして使わないのだろうこの日本は、と思いますが日本で一番使っているのは予備校です。予備校は模擬テストの分析、進路の希望のデータ分析、コンピュータでいわゆる人工知能を使って行えば、今のビジネスの世界での複雑な物に比べると、教育界でいえばたいしたことないです。私は IBM の人等と議論していて『やると言えば私達は作りますよ』と言うんですよ。ただ初期的に言えば初期投資がかなりなのでこれは区教委でする話ではないのですが、予備校などはお金を何億もかけシステム開発をして行い、それによってあなたの英語はここが問題、ここを勉強しなさい、これなら○大学 学部という事も含めて、もう進路指導のベテランの先生のノウハウを超えるくらいの蓄積が出てきているし、学習指導上でもそうなっている。ものによっては将棋や囲碁、チェス等あるいは国立情報科学研究所が、東大の入試は難しいがレベルが中以下の大学入試問題は今のロボットは解けると言う話も出ている。そのような事を、科学技術があるこの日本で活用しないのは非常に不思議でしょうがない。スポーツの世界はむしろ進んでいますよね。これは学校教育が一番遅れている。是非それは、一つ一つでもいいと思うのです。もう既にやっていらっしゃり、しかも中学校全体で一日も早く共有をしたら違ってくるのではないかと思いました。

尾木評価委員長 今後の課題についてお話頂きました。有り難うございました。では今日の議題についてはそこまでにして事務局にお返しをしたいと思います。宜しくお願いします。

庶務課長 本日は有り難うございました。今日対象とさせて頂きました3事業についてはご審議を踏まえて評価書として作成致します。次回は4課題で7月11日、10時からでございますので、宜しくお願い致します。有り難うございました。